

「アクションリサーチ

ー”共に創る”場づくりの再考と未来に向けてー」

場を考える高等学院・liby コーススタッフ（東京 YMCA）

1. プロジェクト概要と実施内容

【活動の概要】

本プログラム「アクションリサーチ～“共に創る”場づくりの再考に向けて～」は2020年度11月～3月の期間で実施した、「通信制高校のサポート校の東京 YMCA 高等学院」と「不登校・引きこもりの若者の居場所オープンスペース liby」の若手スタッフが行ったリサーチプログラムです。高等学院・liby がこれまで行ってきた「場づくり」を改めて考え、高等学院・liby をより良い場にしていこう、という試みです。「場づくり」に取り組む企業や NPO の方々とお話を通して、私たちがこれから出来ることを探っていました。

【実施内容】

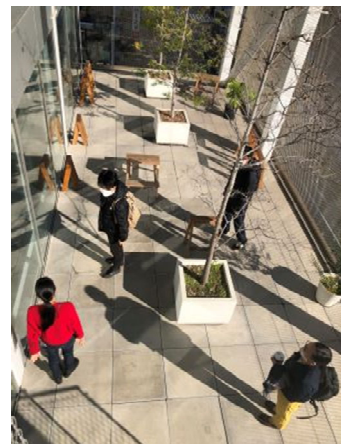
アクションリサーチを行うにあたって、私たちは現在の「場づくり」が抱える課題を考える会を行いました。出てきた課題をもとに「SHBAURA HOUSE」「NPO 法人れんげ舎」「探求学舎」「認定 NPO カタリバ」の4団体にお話を伺うことにしました。抱えていた課題と訪問先については以下の通りです。

○SHBAURA HOUSE 2020/12/15

私たちはハード面での場の作り方に改善の余地があると考えました。そして人が集まる空間デザインや、地域の巻き込み方のヒントを得たいと思い、SHBAURA HOUSE にお話を聞きに行きました。SHBAURA HOUSE は広告デザイン会社ですが、「芝浦にあるひとつの家」というコンセプトのもと、社屋兼コミュニティスペースとして建物を開放しています。近隣の子どもや会社員、海外のビジターが集まるオープンなスペースで年間100回を超える文化的プログラムを実施しています。

代表取締役の伊藤さんとお話をさせてもらい、前社長時代の印

刷会社から、コミュニティスペースとしての印刷デザイン会社へと変わっていた経緯などの





お話を通して、「空間から作る場づくり」「地域に根差した場づくり」「社会状況を考えて実践」を学びました。

○NPO 法人れんげ舎 2021/1/18・25

場を再考する中で、私たち自身の運営にも課題があることがわかりました。運営の中で物事を話しあったり、決めたりする会議について学んでみたいと考え、「場づくりの教科書」を書いた NPO 法人れんげ舎の代表の長田さんに「会の持ち方」について全 2 回の



講義をしていただきました。会議には現場を支える大きな役割があり、基礎が揺らぐと現場に影響を及ぼ

すことや、そのため、誰もが納得できるようなプロセスが重要であることを学びました。また、そのプロセスについても詳しく説明をしていただきました。



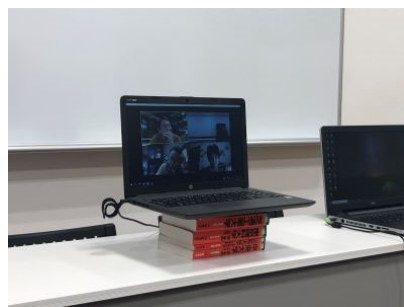
○「ありのまま」を考える会 2021/3/3

高等学院、liby で働く他の若手スタッフも課題意識やモヤモヤを抱えているのではないかと。しかし、その課題に取り組む時間的、精神的な余白がないのではないかと。そう私たちは考え、これまでの学びを活かして、日常的な会議の話題からは逸れたテーマについて若手スタッフで考える会を主催しました。テーマは“日頃よく使われている「ありのまま」という言葉を、それぞれどのような意味で使っているか”。2時間のグループワークでは「ありのまま」という言葉を自分なりに説明してみたり、アニメ主題歌の「ありのまま」を考えてみたりすることで、お互いの考えや捉え方を共有し、深めていきました。



○探求学者 Zoom ミーティング 2021/3/19

自分たちは時代の変化に合わせて活動を新しくしていかななくてはならないと考え、最先端のオルタナティブな活動を見たいと思いました。そこで株式会社ワイズポケットが運営をする探求学舎の講師の向さんにお話を伺うことにしました。探求学舎は興味開発による「学びの変革」を目指しています。探求学舎は合格や成績アップを目指す学習塾ではなく、ひとりひとりの興味、探求心に火をつける教室です。



Zoom 越しに、探求学舎が考える子どもや親との関わりや、学び方を伺いました。話は、「受験のためではない学びへの社会的需要の高まり」から、「企業として、スタッフをエンパワメントすることの重要性について」も及びました。

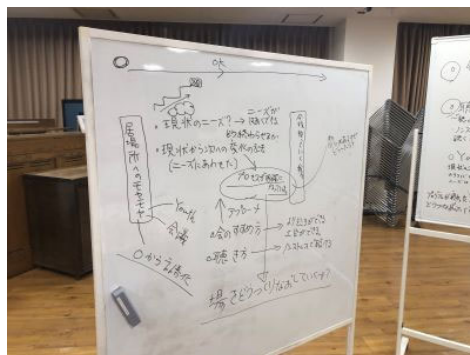
○認定NPOカタリバ Zoom ミーティング 2021/3/24



東京では多数の居場所事業が展開しており、その種類も様々です。私たちの行う「通信制高校のサポート校」「オープンスペース」以外の居場所事業を知る必要があると考え、認定NPOカタリバの職員の佐渡さんにお話を伺いました。佐渡さんは元YMCAリーダーOGで現在はカタリバの運営する、「アダチベース」にて活動されています。アダチベースは貧困など家庭環境に困難を抱える子どもの心の安全基地を目指し運営しています。全国で成長し続けるカタリバの活動理念や、社会状況を見極める力と、理念を自分の言葉化していく大切さについて学びました。これらの訪問の前後には、学習と振り返りの時間を設けました。そしてたくさんのお話の中から本当に多くの学びを得られました。それらの学びをまとめ今後の自分たちの活動に活かすことを目的としたミーティングを行いました。

2. このプロジェクトを通じて考えたこと

私たちのプロジェクトは、自らの現場を再考していくため、自主研修を中心に展開しました。一つ一つの研修からの学びは、要であり新たな気づきを得る機会でしたが、より自分たちの力に変わっていったことは、そこまでの準備の道のりや、終わってからの振り返りが欠かせない事柄の一つだと思っています。プロジェクト発足から最後を迎えるまで、積み重ねによって学びや考えは発展していき、エンパワーされていきました。これらのことを踏まえ、プロジェクトを通じて考えたことをステップ1～ステップ3としました。



ステップ1 立ち止まってみる

このプロジェクトを生み出した発端は、「立ち止まる」ということにありました。どんな想いを大切にして、どんな在り方をしたいのか、何に疑問を感じ変えていきたいのか。これらへのことに向き合い考える機会をもつことは、日常の事業の根幹を強めると共に、目指したい新たな形を共有し合い、創造的な取り組みを増やしていくことができると体感しました。

ステップ2 一人ひとりの主体性を形にする

プロジェクトメンバー自身が学びたいことを一人一つ提案する形式にしたことは、大きな特徴の一つでした。その意図には、受け身ではなく主体性に重きを置きたかったからです。プロジェクトメンバー内であっても誰かが提案したことは受け身になりかねないと考え、問いを与えられるのではなく、自ら問いを立て、学びを得られる機会を自ら形にしていく。このような体験は、自らを力づけることに大変有効だと実感すると同時に、社会へ働きかけることができるという自信へとつながりました。

ステップ3 エンパワーされていく

プロジェクトを創造していくすべてのことが、一人ひとりのエンパワーにつながっていました。その背景には、仲間と共に作り上げ、サポートし合うことが大きなポイントだったと感じています。考えや想いを伝えあう、研修の在り方を話し合う、新たな学びを共有し合う。このような相互性のある対話によって信頼関係を築き、個人の資質を発揮しやすい環境を整えることで相乗効果を生み、主体性を最大限に引き出すことができると感じました。

3. 今後、ユースチャレンジを希望する人へのアドバイス

- 日本 YMCA 同盟はユースの背中を押すプログラムに積極的なので、がんがん応募してみるのをおすすめ。
- やりたいこと、必要だと思うことはあるけど、試す機会がないと思う人におすすめ！
- YMCA の大事にしているユースエンパワーメントは、職員、スタッフ、リーダー、全ての若手に当てはまると思うので、がしがし力を借りるのがいいと思う。
- 人から与えられた仕事ではなく、自分たちでやりたいこと、やるべきことを出して、動けたのがよかった。
- 忙しく変わらない（と思いがち）日常から外へ一歩出るきっかけになるかも。
- 日常と離れた場で、しっかり考える事ができる機会が貴重。
- 同じユース世代と色々話す事で、刺激も多く、元気になれる。
- あゆみ始めてみて、初めて見える事も沢山あるから、挑戦してみてください！